

# 外装木の維持管理

## 基本方針

- ・外装木材の劣化対策のポイント
  - ① 雨掛りを抑える
  - ② 基材の保護対策
  - ③ 塗装系による表面保護対策

## 大屋根トラスの集成材

- ① トラスは雨掛かりのない部位
  - ② 下弦材:カラマツ、ラチス材:スギ……………加圧注入処理(K3)  
「木造計画・設計基準国土交通省官庁営繕部制定)」による
- ・ 基本的にメンテナンスフリー  
 年に一度、ゴンドラから目視点検

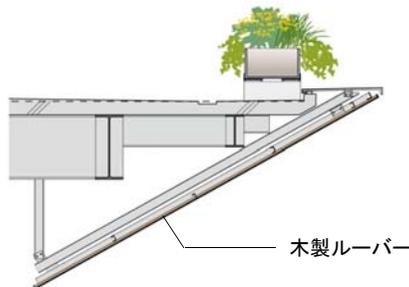
## 軒庇の木製ルーバー

- ① 軒庇は雨掛かりのある部位
- ② 木製ルーバー:スギ……………加圧注入処理(K4)  
「木造計画・設計基準国土交通省官庁営繕部制定)」による

- ③ 色調調整のため5年に一度の表面保護塗装

- ・ 年に一度、目視点検

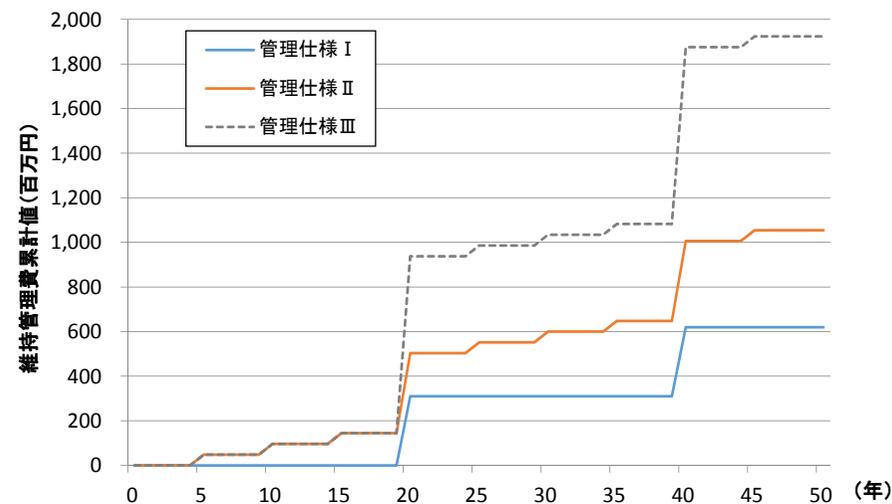
万が一の補修時は、高所作業車を使用



軒庇の断面イメージ

## ・維持管理仕様の違いによる軒庇のランニングコスト比較

管理仕様Ⅰ: 著しい劣化のみに対応した保全(20年に1回、10%の部分更新) ……簡素案  
 管理仕様Ⅱ: 管理仕様Ⅰに加え、保護塗装の補修費まで含めた保全 ……美装案  
 管理仕様Ⅲ: 管理仕様Ⅱに加え、20年目に保護塗装を全面更新する保全 ……美装案



軒庇のランニングコストのイメージ

参考: 高耐久木材(加圧注入処理材)の性能区分

- K1: 屋内の乾燥した条件
- K2: 低温で腐朽・蟻害の恐れが少ない条件(本州に建つ住宅の土台)
- K3: 低温で腐朽・蟻害の恐れがある条件で耐久性確保  
(集成材の場合、このグレードが限界)
- K4: 激しい腐朽・蟻害の恐れがある条件  
(屋外で、直接風雨にさらされる部材)

# 植栽の維持管理

## 基本方針の変更

- 技術提案時に想定していた粗放型の「必要な管理(レベル1)」から、個体差を考慮した「必要な管理(レベル2)」、更に特別な作業を行う「見せる管理」へ方針を変更し、手かけながら良好な状態を維持する。
- 技術提案時の在来種で常緑が主体の植栽計画を見直し、充実した管理を前提として園芸品種を織り交ぜ、彩り豊かな花の咲く樹種を多く取り入れるような植栽計画とする。

**必要な管理(レベル1)** ・粗放管理により植物の最低限の維持を行う。



**必要な管理(レベル2)** ・植物毎の生長に合わせた管理を行う。

### 見せる管理

- ・季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景をつくる。
- ・植物の異常を早期に発見し、健康な状態を保つ。

## 管理項目の整理

特別管理項目	見せる管理 ※	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花がら摘み</li> <li>・花後の施肥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘引</li> <li>・枯枝整理</li> <li>・スポット灌水</li> <li>・支柱調整</li> </ul>
基本管理項目	<b>必要な管理(レベル1)</b>	<b>必要な管理(レベル2) ※</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剪定: 枯枝や病害虫枝の除去</li> <li>・施肥: 最低限の量を緑地全体で一括して与える</li> <li>・薬剤散布: //</li> <li>・除草: 一度にまとめて実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剪定: 樹形を整える</li> <li>・施肥: 個体差を考慮した種類と量を適切な時期に与える</li> <li>・薬剤散布: //</li> <li>・除草: 樹種を選別しながら実施</li> </ul>

## 管理目標の設定

- 3種類の管理グレード(仕様Ⅰ～Ⅲ)に応じて管理目標を設定します。

		管理仕様Ⅰ	管理仕様Ⅱ	管理仕様Ⅲ
仕様イメージ				
	建物			
建物	空の杜	必要な管理(レベル1)	見せる管理 ※	見せる管理 ※
	植栽プランター	必要な管理(レベル1)	見せる管理 ※	見せる管理 ※
敷地	大地の杜	必要な管理(レベル1)	必要な管理(レベル2)	見せる管理 ※
	せせらぎ植栽	必要な管理(レベル1)	必要な管理(レベル2)	見せる管理 ※

↓  
(技術提案のベース)

↓  
(実施設計の目標)

※ 必要な管理(レベル2)を含む

※ 常駐を基本とし、作業内容に応じて増員